

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

雑	損	支払保険料	前	受	金	前	払	金
支払手数料		貸倒損失	預	り	金	現金過不足		
現	金	当座預金	給		料	貸倒引当金		
買	掛	普通預金	未	払	金	売	掛	金

- 4月末日において現金の実際有高を確認したところ¥349,400であったが、現金出納帳の残高は¥345,600であった。なお、当店の会計期間は1月1日から12月31日の1年間である。
- 宮城商店に対する買掛金¥240,000と売掛金¥180,000があるが、本日、その差額¥60,000について当店の普通預金口座から振り込んだ。
- 得意先野田商店が倒産し、当期発生分の売掛金¥500,000のうち¥100,000は、同店から注文を受けた際に受け取っていた手付金と相殺し、残額は貸倒れとして処理した。なお、この時点での貸倒引当金勘定の残高は¥80,000であった。
- 従業員に対し、給料として源泉所得税¥12,840および社会保険料¥3,000を差し引いた残額¥197,160を現金で支払った。
- 得意先に対する掛代金¥500,000の回収として、振込手数料(当店負担)¥400が差し引かれた残額が当店の当座預金口座に振り込まれた。

第2問 (8点)

山梨商店の平成30年4月中の取引は次のとおりである。それぞれの日付の取引が、答案用紙に示したどの補助簿に記入されるか、該当する補助簿の欄に○印を付して答えなさい。なお、どの補助簿の記入にも該当しない場合、「該当なし」に○印を付すこと。

- 3日 仕入先千葉商店から掛で仕入れた商品¥250,000分が品違いだったため、本日返品した。
- 9日 仕入先群馬商店に対する掛代金¥600,000を、小切手を振り出して支払った。
- 18日 先月当座預金口座に栃木商店から内容不明の入金¥500,000があったが、本日、その入金は売却した当店で用いている事務用棚に係る掛代金の振り込みであることが判明した。
- 26日 得意先埼玉商店に対し、商品を¥1,600,000で販売し、代金のうち半額は同店振出しの小切手で受け取り、残額は掛とした。



#### 第4問 (12点)

次の文の(①)から(⑥)に当てはまる適切な語句を下記の[語群]から選び、ア～シの記号で答えなさい。

1. 商品販売のための営業用車両を購入した場合、当該車両は(①)に該当し、決算において(②)を行う。なお、その購入代金が未払いの場合は、(③)勘定を用いて処理する。
2. 建物の購入に際し支払った仲介手数料は原則として(④)として処理する。
3. 交通費以外の支払いにも充てる目的で交通系電子マネーにチャージした場合には、そのチャージ代金は(⑤)勘定を用いる。
4. 個人商店の場合、決算振替仕訳ですべての収益勘定と費用勘定を損益勘定に振り替えるが、このような勘定のことを(⑥)勘定という。

#### [語群]

ア 取得原価	イ 集	合	ウ 支払手数料	エ 旅費交通費
オ 未払金	カ 経	過	キ 商品	ク 減価償却
ケ 売上原価の算定	コ 有形固定資産		サ 間接法	シ 仮払金

#### 第5問 (30点)

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は1月1日から12月31日までの1年間である。

#### 決算整理事項等

1. 当期に¥80,000で掛販売した商品が返品され、商品受取の際に配送料¥3,200を現金で支払った。この一連の取引については以下の仕訳が行われていたため、適切に修正する。  
(借方) 仕入 83,200 (貸方) 売掛金 80,000  
( 〃 ) 現金 3,200
2. 普通預金口座から通信費¥27,000が引き落とされたが、未記帳であった。
3. 商品の期末棚卸高は¥223,000である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
4. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
5. 建物(定額法、残存価額10%、耐用年数30年)および備品(定額法、残存価額ゼロ、耐用年数12年)について減価償却を行う。
6. 貸付金は前期の3月1日に期間3年、年利率2%の条件で貸し付けたもので、利息は1年分を毎年2月末日に受け取ることになっている。よって、決算に際し未収利息の計上を行う。なお、利息の計算は月割りによる。
7. 支払保険料のうち¥60,000は、当期の7月1日に1年分を前払いしたものである。
8. 給料の未払分が¥32,800ある。